

1. 佐渡卓句碑のこと

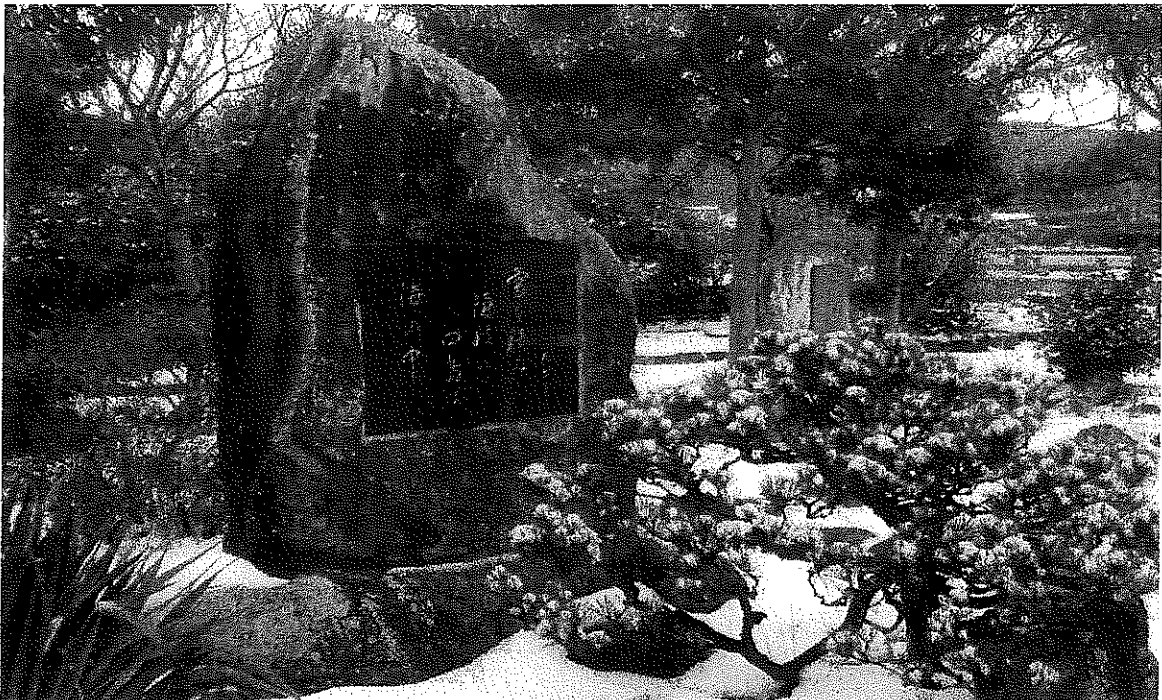
岡崎哲二・和田航一

しばらく前に広島の岡崎哲二 OB から手紙を戴いた。その手紙には数年前に家族で隠岐島に旅をしたとあった。以下、岡崎さんからの手紙を紹介する。(和田)

隠岐・中の島海士町の観光地図に「佐渡卓句碑」と銘をうった公園があり菱浦港から徒歩で5分の場所で、鏡浦園と名づけられていました。

行ってみると句碑を真ん中として、佐渡さんが建てられた句碑が他に3石ありました。記念句碑の発起人は当時の日本を代表される方々で佐渡さんを賞賛した文が刻まれていました。ただ残念なことに、公園は雑草が生え、雑木が野積状態でした。後でわかったことでは、公園は佐渡さん個人の土地で町も清掃に手が出せないようでした。このことを翌年、当時の広島支店長・谷本さんに相談し、カンパを戴き OB 会有志の名で清掃費の一部に使用していただくよう支店長、大野松江営業所長にも同行して町長に手渡ししました。今年になり、現支店長の川上さんが町に挨拶に寄られたら、佐渡家から公園用地を譲り受け、周辺も含め観光整備計画を立ち上げたとのことでした。以前この用地には旅館が建っており、小泉八雲がセツ夫人と避暑で滞在した場所でもあるようです。私が訪れた日は佐渡さんの誕生日と重なるもので、運命的なものを感じました。当日は雨でうっそうとした中で句碑に刻まれた発起人の言葉を書き留めました。このような志の高い経営者のもとで働けたことを改めて感謝しています。

(岡崎哲二)



と手紙は結ばれ、数枚の写真が添えられていた。

句碑には「雪を積み隠岐の四島は海の中・たかし」とあり、裏面発起人による佐

渡卓の略歴・功績が刻まれ、信託業の興隆と日本国土開発の社長に就任同社の伸展に尽くされ、平素より郷土を愛し、その発展と青少年の育成に情熱を注がれ島人より敬愛されているとある。

社史によれば佐渡卓氏は、明治 29 年菱浦に生まれ神戸高等商業学校を卒業、昭和 5 年三井信託銀行に入社、昭和 22 年には同社代表取締役、日本国土開発の創立を推進された吉田、池田、佐藤総理から要請され、昭和 30 年に四代目日本国土開発代表取締役社長に就任された。当時の当社は深刻な状況にあったが就任するや直ちに、それまでの建設機械賃貸から請負への転換を決意し幹部に意志を統一し邁進した。その後のわが社の発展は OB の皆さんがご存知のとおりである。佐渡社長は、創立 20 周年昭和 46 年に社長を勇退し会長に就任された。昭和 59 年 2 月 9 日に 87 歳で亡くなられ、隠岐島に眠っておられる。

日本国土開発は昨平成 21 年 4 月 10 日の第 58 回創立記念日を迎えている。

(和田)

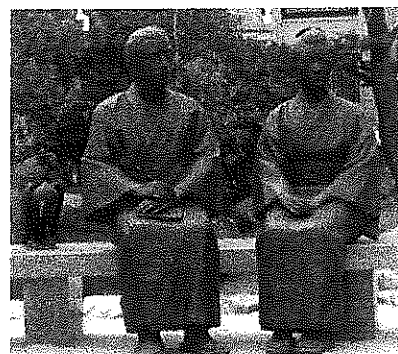
佐渡卓句碑 表紙説明

佐渡卓氏は昭和 30 年から 46 年まで当社四代目社長をされ、生まれ故郷・隠岐に句碑を建てられた。句碑を訪れた岡崎 OB からの手紙を会報本文で紹介する。表紙写真の佐渡卓句碑の建てられた菱浦海岸の屋敷跡敷地は佐渡家から町が譲り受け佐渡公園と名付けられ整備された。この句に託して郷土への慕情と佐渡家縁者が受けた情誼に対する謝意を表している。句碑の写真は岡崎 OB からの手紙に添えられたものである。



回想 佐渡卓より

2009 年 8 月 3 日には佐渡公園に小泉八雲がセツ夫人と避暑で滞在した場所として小泉八雲曾遊記念碑と八雲夫妻が並んで座ったブロンズ像の除幕式が行われ、吉田茂元首相の「隠岐四島」記念碑の三つもあわせて建て小公園を造成して公開している。小泉八雲夫妻はこの地に久しく滞在し菱浦は隠岐一番の美港とたたえ「ポートオブミラー」鏡浦と命名したとある。右の小泉八雲夫妻のブロンズ像の写真は観光隠岐海士町オフィシャルサイトにある。



小泉八・雲夫妻ブロンズ像佐渡公園内